

## 5 - 4

## 二の丸御殿跡・東北隅櫓跡

二の丸御殿は維新後、筑摩県庁として使われ明治9年焼失しました。その跡へ明治11年松本裁判所が建てられました。昭和52年裁判所の移転にともない、昭和54年10月より二の丸御殿跡の発掘調査と史跡公園整備事業を実施し、昭和60年3月完成しました。

- 1 二の丸御殿を創建したのは現在、誰と考えられていますか。 ②石川康長
- 2 政庁としての機能を持った二の丸御殿は建坪約2330㎡、5棟の建物からなり50の部屋を数えました。あ・い・う・え の部屋名を答えなさい。

あ—— ①玄関の間 い —— ②御書院  
う —— ③御寝間 え —— ④御年寄部屋

- 3 二の丸御殿跡は平面復元されていますが、二の丸御殿遺構は埋め戻され保護のために砂が被せられ、さらに盛土がされています。平均して二の丸御殿の遺構は現地表面より何cm下にあることになるでしょう。 ④50cm

二の丸御殿跡整備面をほぼ水平に保つ為、覆土は保護砂利平均30cm、その上に盛土20cmとして整備された。しかし、遺跡面はでこぼこがあるため砂利の被覆は最低5cmとしその上に盛土20cmとしている。

- 4 井戸があった真上には井桁に組んだ木が置かれ井戸の位置を示しています。写真のように植え込みを刈り込んで、ある遺構の位置を示した箇所があります。その真下にあった遺構はなんでしょう。

③雪隠



便壺に使用されていたとみられる大甕が11個出土した。その内の一つの甕から「天保通宝」1個が発見された。二の丸御殿の便所はすべて建物の外側に配置されていた。これは、便所の構造が汲み取り式で、その便宜の為に外側に設けられたと思われる。その際の出入りは裏門が使用された。写真に見える雪隠あとを示す植物はマメツゲである。

- 5 二の丸御殿跡からは様々なものが出土しました。写真の小型土器はなんでしょう。

コップ型の小型土器には「泉湊伊織」の刻印がありました。



### ① 焼塩壺

二の丸御殿跡から「焼塩壺」が 59 点出土している。これは塩壺ではなく「焼塩壺」である。その製法は粗塩を臼の中で細かく粉碎し、これを別注で焼かせたコップ状の小型土器に入れ、天井のない窯の中に積み重ねて焼いた。はじめ真っ黒な煙が出て、やがて真っ赤になり次第にピンクを帯びてくる。

これでニガリなどが取れ真っ白な焼塩できたという。

このように焼塩メーカーが存在し、焼塩壺を江戸時代に販売していたのである。

焼塩壺の生産地は 1、堺湊 2、泉州麻生 3、播磨 4、京都深草 5 京都岩倉木野等であった。このうち最も古くから行なわれ、大きな販路を持っていたのは堺湊である。これは堺町奉行付きの湊村（現堺市西湊町）である。今風に言えば「伊織」はメーカーの社長名である。「泉湊」はその刻印の研究から「泉州堺の湊村の伊織」製造の焼塩壺ということになり 18 世紀中頃から後期にかけてのものが一番多いと考えられている。

後戸田氏は 1726 年鳥羽から松本に入封しており、関西の塩味文化圏からの転封であり、京都正親町三条家とも関係があり関西の焼塩壺が多量に出土する背景としては十分であるといえる。中部地方では名古屋城・岡崎城・丸岡城・富山城・長岡城・松本城・駿府金座跡から出土している。

6 二の丸御殿の東側と北側は土塁の上に塀がありました。所々、塀が曲がっています。このような土塀をなんと呼ぶでしょう。

### ①折れ塀

7 右写真の赤矢印の所が東北隅櫓<sup>とうほくすみやぐら</sup>です。この絵図は「正徳二年頃信州松本城之図」ですが赤矢印の先に東北隅櫓の絵が貼られています。

この絵は東北隅櫓の正面と側面が一枚に描かれ寸法が記入されています。またこの絵図を手前に倒すと右写真の青矢印の様に隅櫓の底面があらわれます。このような絵を何というでしょう。

(この絵は薄い日本紙に描かれています)

### ③起し絵<sup>おこしえ</sup>

南北 4 間×東西 3 間

一階 桁下 1 丈 4 尺 7 寸

二階 桁下 1 丈 2 尺 3 寸

※丈は尺の 10 倍 ・ 1 尺は 30.3cm ・ 1 寸は 3.03cm



